

早稲田大学 人間科学部(数英型) 傾向と対策

1 最低点

	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
人間環境学科	89.0/150(59.3%)	87.620/150(58.4%)	88.5/150(59.0%)	87.40/150(58.3%)	86.62/150(57.7%)	97.48/150(65.0%)	94.12/150(62.7%)
健康福祉学科	86.4/150(57.6%)	85.601/150(57.1%)	85.5/150(57.0%)	85.72/150(57.1%)	85.53/150(57.0%)	92.43/150(61.6%)	93.80/150(62.5%)
人間情報学科	88.5/150(59.0%)	85.616/150(57.1%)	87.0/150(58.0%)	86.92/150(57.9%)	86.77/150(57.8%)	99.51/150(66.3%)	95.43/150(63.6%)
共テ平均点						46.825 / 60	44.949 / 60
英語平均点						21.333 / 50	23.379 / 50
数学平均点	15.459 / 50	10.335 / 50	13.712 / 50	16.589 / 50	11.921 / 50	12.690 / 40	12.840 / 40

*2024 年までは文系も受験ができました。平均点については理系の平均点を載せています。

*2025 年から共テが加わりました。

*英語、数学ともに成績の標準化が行われています。合格最低点は素点でないことに注意してください。

2 配点

共テ 60 点 英語 50 点 数学 40 点

3 特筆すべき出題分野

★数学 A の出題範囲はすべてとなっています。

★数学 B の出題範囲に「確率分布と統計的な推測」が含まれています。

4 学習について

試験時間は 60 分で大問 5 つです。すべてマーク式ですが、とにかく時間がないです。出題分野は幅広いです。毎年のように微分積分、確率は出題されている印象です。ベクトルの出題も多いです。他は多岐にわたります。網羅系の参考書でしっかり典型問題をおさえておきたいです。

全て手をつける時間がないです。はじめに小問集合が出題されることがほとんどですが、小問集合とはいえず、難しい問題が含まれる年もあります。大変そうだなと思ったら思い切ってとばしましょう。また大問全てをまず見て、解きやすい問題を探すとよいです。大問 2 つ分得点できれば平均点を越えていくと思います。効率よく立ち回れるかがポイントです。

おススメの学習の流れをお伝えします。

- ①『青チャート』『Focus Gold』『LEGEND』『大学への数学 一対一対応』等を利用して早期に参考書にあるものを繰り返し確認し理解しましょう。
- ②『大学への数学スタンダード演習 I A II BC/III C』『理系数学・入試の核心・標準編』『理系数学・入試の核心・標準編』『理系数学の良問プラチカ 数学 I A II BC』といった問題集で演習を積むとよいでしょう。
- ③時間に余裕があれば『理系数学の良問プラチカ III C』『上級問題精講』『理系数学・入試の核心・難関大編』といった思考力を養成する問題集で実践力を向上させたいです。
- ④早稲田大の過去問に取り組んで、時間配分の練習をしましょう。また思考力、計算力の養成に努めてください。難易度は次の項目で提示しますので参考にしてください。A や B といったレベルをとれるよう励んでください。過去問については赤本で見ることができますし、東進の過去問データベースでも見ることができます。

5 過去の出題問題と難易度

過去に出題された分野と難易度を以下に示します。

A・・・完答必須です。 B・・・合格の明暗を分けそうです。 C・・・方針をとらえて部分点を得たいです。

D・・・難しいです。少しでも部分点がとれたら。 E・・・できなくても仕ないです。

2020 年 目標 4 割 5 分

【問 1】(1) 確率 A (2) 場合の数 A

(1)は袋がたくさんあって驚きますが、冷静に取り組めば簡単です。(2)はコンビネーションで一発というのが定番

になっていたでしょうか。

【問2】三角関数 C

$\sin$ の値は -1 から 1 までしかとれないから $\sin \alpha = -1$, $\sin 2\beta = -1$ のときしかないじゃんと思えたかどうかです。これは穴埋めらしく数学の感覚が試されるものですが、それを発想できた受験生は多くないでしょう。

【問3】ベクトル B

計算量が多いが定番です。完答したい問題です。

【問4】複素数平面 B

これも完答したいものです。 z と w の関係式を求め、 $|z-4|=1$ に代入することで w の軌跡を得ます。完答したい問題です。

【問5】微分積分 D

時間的にこなしてられないでしょう。手をつけていない受験生がほとんどでしょう。

総評

配点は定かではないですが、本年の数学の平均点は $15.459/50$ 点です。【問1】【問3】【問4】ができれば十分合格点でしょう。2問でも平均点は超えそうです。

2021年 目標4割

【問1】場合の数、確率 B

(2)は完全順列の応用問題です。経験がなくても余事象で取り組むのがよいと思いたいです。丁寧に場合分けすれば難しくありません。完答したい問題です。

【問2】(1) 対数 B (2) 図形と計量 A (3) 整数 A

(1)は面倒ですが丁寧に計算すれば6分の1公式でサラリとこなせます。(2)(3)は落とせないでしょう。

【問3】数列 C

はじめの穴を埋めれば良いだろう。後半は場合分けが多く難しいでしょう。ピックの定理

$S = \frac{1}{2}E + I - 1$ (S は面積、 E は辺上の格子点、 I は内部にある格子点) を用いると少し早いですが、知らない受験生がほとんどでしょう。できなくてよいと思います。

【問4】数列の極限 C

時間内には厳しいです。はじめの穴くらいは埋めたいです。後半はできなくてもよいですが、 $\square$ は設定から0しか入り得ないことには気づきたいです。

【問5】2次曲線 B

数学で稼ぎたい人は完答したい問題です。やや図形を把握するのに時間はかかりますが、丁寧にやればそれほど煩雑ではありません。

総評

本年の数学の平均点は $10.335/50$ 点でかなり低いです。【問1】【問2】をしっかりとれば平均点は簡単に超えそうです。これにちょっとずつ得点をとりにいけば標準化によりかなりの高得点を稼げるのではないのでしょうか。

2022年 目標3割5分

【問1】(1) 数列 D (2) 2次関数、場合の数 BC (3) 図形と計量 B

小問集合としてはレベルが高いです。(1)は解釈するだけ時間の無駄です。とばしたほうがよいでしょう。(2)は文字が多く少しやりにくいでしょうか。(3)は変な式があつてビビりますが、2乗があるし余弦定理だろうと思って取り組めば難しくありません。1つは完答したいです。

【問2】三角関数 B

これは完答したいです。計算ミスだけ気をつけましょう。

【問3】空間ベクトル C

前半は平面に垂線を下ろす話の応用ですが、内積0二回にもちこむと面倒です。正四面体ですので、ある程度対称性を利用して計算するのが良いですが、やりきれぬ受験生は少ないでしょうか。

【問4】2次曲線、積分法 CD

はじめだけしっかりとりたいです。

【問5】複素数平面 C

計算が多く時間内には厳しいでしょう。はじめだけは埋めたいです。

総評

本年の数学の平均点は $13.712/50$ 点でやはり低いです。【問2】プラス1問分くらいの点数がほしいです。高得点は少なそうで、平均点付近で団子状態になりそうです。

2023年 目標4割

【問1】(1) 場合の数、確率 B (2) 複素数と方程式 A (3) 指数・対数 A

(1)は丁寧に数え上げればよいです。(2)がすぐに「はいはい ω のことね」となりたいたいです。(3)は底を5としてlogをつければよいのは分かりやすいです。全部完答したいです。

【問2】指数・対数 B

丁寧にlogを外せばよいです。これも完答したいです。

【問3】空間ベクトル B

前半は垂線を下ろす問題の応用問題です。後半は垂直条件を用いても、変数を設定してゴリ押ししても甲乙ない

でしょう。完答を目指したいです。

【問4】微分積分 C

後半の積分はやや量が多く時間内には厳しいでしょう。数学で稼ぎたい人は何とかがんばりたいです。

【問5】ベクトル、図形と方程式、積分法 D

球面に接線を引いたり、接平面をとるときは垂直条件を用いたりします。はじめだけでもとりたいです。

総評

本年の数学の平均点は **16.589 / 50** 点で以前より上がりました。これは【問1】の小問集合のレベルが下がったのが要因でしょうか。前半3問をしっかりとれば十分合格点でしょう。

2024年 目標4割

【問1】(1) 2次関数 B (2) 図形と方程式 C (3) 指数・対数 A

(1)は工夫して展開するものの典型です。そのあとは置換して2次関数にもちこみます。(2)は図を把握するのに時間がかかりそうです。その後も確実に面積を出せるかという点と出来は悪そうです。(3)は確実にとりたい。

【問2】確率 C

まず分母となる確率を場合分けして出そうと思えたか、その確率をちゃんと求められたかどうかでありますが出来は悪いでしょう。

【問3】空間ベクトル B

本問は空間ベクトルでも最もよくでる問題といってよいでしょう。本問は明暗を分けそうです。

【問4】空間座標、微分法 C

A, B を xy 平面に下ろし、一直線上にします。その後、どれか変数をおいて表現し解析という流れですが、出来は悪いでしょう。

【問5】いろいろな曲線、積分法 B

内サイクロイドの話題で、慣れていれば難しくありません。本問は差がつき、明暗を分けた問題だったかもしれません。

総評

本年の平均点は **11.921 / 50** ですが、後半は定石的な問題の応用問題という印象です。参考書にある例題をしっかりと覚えておく必要があるでしょう。

2025年 目標3割5分

【問1】(1) 因数分解 B (2) 無理方程式 AB (3) 球面の方程式 B

(1)は穴を参考にして、まずは定数項を推定し、あとは帳尻合わせという流れです。あるいは穴を文字でおいて展開し係数比較でしょうか。まともに付き合わず穴埋めの利を活かしたいです。(2)は二乗を二回しながら $\sqrt{\quad}$ を外して計算していきます。(3)は球面の方程式を得て、 $z=0$ にしたり、 $x=0$ かつ $y=0$ にしたりというものである。計算がやや複雑なのはどうかです。

【問2】絶対値 C

地道に場合分けして具体化し、取り組んでいくというものです。直線の組み合わせにすぎないので、最小値をとるのは、 $x=a$, $x=b$, $x=c$ のときのどれか、真ん中だろうから $x=b$ と予想できると早いですが、そこまで機転のきく受験生は少なそうです。少しでも穴が埋まれば上出来でしょう。

【問3】平面ベクトル C

外心の位置ベクトルを求める問題の経験があったかどうかです。後半は内心の位置ベクトルを考えていきますが、角の二等分線の性質を使います。計算が激しいのでやりきれない受験生は多そうです。内心の位置ベクトルの求め方は参考書等で確認はしておきたいです。

【問4】複素数平面 C

実数係数では共役複素数も解であること、解と係数の関係、結局は直角二等辺三角形だから $1:1:\sqrt{2}$ を処理するというものです。複素数平面では重要問題ですが、短時間でできた受験生は少ないでしょう。

【問5】微分積分 A

ここでやっと解きやすいものが現れました。これは完答必須でしょう。しっかり全体を見渡して解きやすい問題に手をつけたいです。

総評

本年の平均点は **12.690 / 40** です。【問1】【問5】でしっかり点数を確保できたかが勝負でしょう。

2026年 目標3割5分

【問1】(1) 指数対数 BC (2) 整数 AB (3) 確率、確率分布 C

(1)は右肩が複雑ですので、 $\log$ をつけようと思えたかが焦点です。少し計算が複雑で出来は悪そうです。(2)は最大の整数さえ分かれば簡単です。ここは解答したいです。(3)は i) が解ければよいでしょう。ii) は i) をヒントにしますが、確率分布の考え方を応用するもので、ほとんどの受験生はできていないでしょう。

【問2】三角関数 B

予選決勝法の考え方です。まずは x, y を固定して合成し、 $\sin(\theta + \alpha) = 1$ のときに最大とします。そのあとは x, y の2変数関数を考えますが、条件から三角関数でパラメータ表示して考えればよいです。風変りな問題かもしれませんが、本問は完答したいです。明暗を分けた問題かもしれません。

【問3】空間ベクトル C

はじめの成分で精一杯でしょう。後半は学習としてはよいのですが、時間的に付き合っている暇はないと思われる

ます。

【問 4】複素数平面 AB

ド・モアブルの定理の問題としては典型的です。ここは完答必須でしょう。

【問 5】微分積分 B

体積なので放り投げてしまう受験生は多そうですが、典型的な問題に少しひげをつけたような問題です。少なくともはじめの体積は答えておきたいです。

総評

本年の平均点は **12.840 / 40** です。**【問 2】【問 4】** を完答すれば平均点はこえます。他もいくつか埋められていると思います。このようにターゲットを絞ってしっかり得点していくというのが正攻法でしょう。